

ロスコープ、コンピューター数値制御画像測定機などを導入。テスト加工用のプレス機なども順次導入する。社員3人を常駐させるほか、大学教授ら専門家を顧問に招く。

高精度な金型技術を用いたほかの技術からの工法転換や金型の長寿命化、難加工材の成形技術などを研究する。顧客との共同開発や試作にも取り組む。また測定・試験解析業務も受託する。

金型開発拠点を新設 大垣精工

【岐阜】大垣精工（岐阜県大垣市、上田勝弘社長、0584・89・5811）は、金型による

加工技術や素形材の基盤技術の開発・研究拠点「金型先端技術開発センター」写真一を本社工場

の隣接地に新設した。投資額は2億円。各種試験機を導入し、10月末をめどに全面運用する。

同センターは2階建てで延べ床面積は697平方メートル。分析走査電子顕微鏡やハイスピードマイク

